

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 10じん芥処理費

◎処理の経費

名越クリーンセンター処理事業

【 名越クリーンセンター 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち

生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 一般廃棄物の適正な処理のため。

効果 生活環境の保全及び公衆衛生の安定が図られる。

【事業の内容】

(1) 名越クリーンセンター処理事業

- ・市民、事業者から排出されるごみを適正に処理するための焼却施設、粗大ごみ処理施設の運転及び維持管理を行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

粗大ごみ等の処理手数料の適正化(3-3-3-⑥)

クリーンセンターダイオキシン類対策(3-3-3-⑦)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
313,134	317,692	314,670		3,022

主な支出内訳

・名越クリーンセンター処理事業

薬剤等消耗品費	37,395
施設燃料費	5,529
施設用維持修繕料	166,543
電気工作物定期点検手数料	776
ごみ質検査手数料	420
作業環境調査業務委託料	672
クレーン年次点検業務委託料	810
環境調査業務委託料	2,730
定期機能検査業務委託料	499
焼却施設運転管理業務委託料	90,720
洗車排水汚水槽清掃等委託料	1,372
粗大ごみ等計量用トラックスケール賃借料	4,798

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-19 名越クリーンセンター処理事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1171 ごみ処理事業					
主管課	名越クリーンセンター	関連課	環境部各課				
分野名	生活環境						
目標 (目標値)	収集されたごみを適正に管理する。 適正な処理 100%						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
	103,635人	103,671人	103,576人				
運営資源 状 況	決算値	314,670千円	317,498千円	279,201千円			
	(国・県)						
	(負担金等)	55,807千円	61,958千円	106,164千円			
	(一般財源)	258,863千円	255,540千円	173,037千円			
	人員配置数	9.1人	9.1人	12.1人			
	人 件 費	84,909千円	85,423千円	114,941千円			
	協働の パートナー						
事務事業 運営経費	総事業費	399,579千円	402,921千円	394,142千円			
	市民1人当 りの経費	2,264円	2,291円	2,252円			
	対象者1人 当りの経費	3,856円	3,887円	3,805円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
各種規制基準の遵守	◎	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
1時間当たりの焼却量	△	目標値	2,500kg/h	2,500kg/h	2,500kg/h	2,500kg/h	2,500kg/h
		実績値	2,417kg/h	2,452kg/h			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
1人当たりの超勤時間の 削減(年間)	△	目標値	210時間	210時間	210時間	210時間	210時間
		実績値	228時間	228時間			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度( 年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 施設の老朽化に適切に対応するため、職員による自家補修、業者による修繕及び委託業者による適切な運転管理の連携を維持する。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・職員間の情報の伝達・共有を目的に週1回、施設担当全員でミーティングを行うこととし、維持管理上の問題点等の把握に努めた。 ・毎日の始業時に市職員と運転管理を委託している事業者との情報共有を目的としたミーティングを継続実施している。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) なし
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 施設の老朽化の度合いによる修繕の優先順位や修繕の実施主体(職員・業者)を考えながら、効率的な施設の維持管理を継続して実施する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	建設後27年を経過した施設の老朽化に対応するため施設の管理担当職員と管理運営受託業者との連携を密にし、修繕計画等に基づいて設備や建築物の適切な管理に努める。		
担当課長氏名:	名越クリーンセンター所長 古谷 修		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	今後のごみ処理の方向性を早期に決定するとともに、より一層施設の適切な維持管理に努めていきます。		
担当部名	環境部	部長名	勝山 洋